あなた自身のことについておうかがいします。

次の1～15 の質問全てについて、
現在、最もよくあてはまると思う番号に○をつけてください。

		1 全く思わない	2 少しは思う	3 中程度思う	4 とても思う	5 非常によく思う
1	自分の生き方は自分で決められる（選択できる）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
2	自分には何らかの目的（めざすもの）があると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
3	自分の夢・願いを実現させたい（かなえたい）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
4	自分と自然（宇宙）との間にはつながりがあると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
5	自分と自分の祖先（未来の世代）とは結びつきがあると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
6	自分の人生は超自然的な力（見えない力）によって導かれていると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
7	自分は意味のあること（有意義なこと）をやってきたと、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
8	自分は誰かに必要とされている（誰かの役に立っている）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
9	自分がすべきこと（成すべきことは）はできるかぎりやってきたと、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
10	今の自分は好きだ（自分を肯定的に評価できる）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
11	「理想の自分」と「実際の自分」とは一致している（ズレがない）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
12	今の自分の状況を受け入れることができる（許容できる）と、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
13	自分自身の考え（信念）にもとづいて生きていると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
14	自分の人生への態度（物事の見方）はこのままでよいと、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5
15	自分は安定した人生観（価値・手段についての考え方）をもっていると、どの程度思いますか。	1	2	3	4	5

まず，
以下①～⑤の句（･･･）に続けて，
あなたがいま感じていることや，頭に浮かんだことを記述してください。

次に，
あなたが記述した①～⑤の句（･･･）の「回答」に対する**自己評価**
（0**ネガティブ**な回答，1どちらともいえない，2**ポジティブ**な回答）を考え，
最もよくあてはまると思う番号に〇をつけてください。

	0 **ネガティブ**な回答（または無回答）	1 どちらともいえない	2 **ポジティブ**な回答
①何よりも一番したいことは…	0	1	2
②一番の支えになるものは…	0	1	2
③周囲に対して強く感じていることは…	0	1	2
④自分のこれからは…	0	1	2
⑤病（病気または疾病）というものは…	0	1	2

SRS-B

＜スピリチュアリティの定義付け＞2019.08.20
【概念的定義】スピリチュアリティとは「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的つながり性」をいい，「**神気性**」（personal spirituality）と表記する。（比嘉，2017）
【操作的定義】「**神気性**」（personal spirituality）は「何かを求めそれに関係しようとするこころのもちようであり（**意気**），自分自身やある事柄に対する感じまたは思い（**観念**）」を数値化/文字化する**神気性評定尺度**（Spirituality Rating Scale：SRS-AB）によって評定できる。（比嘉，2008）

SRS-Aは，スピリチュアリティの高低を評価できる15項目5件法の尺度である。
5因子（意欲1~3，深心4~6，意味感7~9，自覚10~12，価値観13~15）から構成され，その合計得点が高いほど私的なスピリチュアリティ（personal spirituality）が高いことを示す。
サンプルサイズが小さい場合は，2因子（**意気**1~6=意欲+深心，**観念**7~15=意味感+自覚+価値観）の各得点または15項目の合計得点を統計処理（推定・検定）する。

SRS-Bは，SRS-Aを質的側面から補完する5項目文章完成法の尺度である（他者評価法も可）。
5項目（①=望み数，②=支え数，③=対他評価，④=対自評価，⑤=病観）はSRS-Aの5因子に対応している。
各項目に対して自由度の高い回答内容を許容するため，量的/質的な内容分析に有用である。
サンプルサイズが大きい場合は，5項目の合計評点の統計処理（推定・検定）が可能である。
半構成的面接（インタビューガイド）の導入部に用いて，回答内容を追究することも可能である。

＜SRS-AとSRS-Bの関連性（信頼性・妥当性）＞
自己評価法におけるパス係数＝0.71（浜多他，2017）
他者評価法における相関係数＝0.56（比嘉他，2005）
★SRS-AB掲載誌『神気性（スピリチュアリティ）とは』比嘉勇人：看護診断13(1)，78-83，2008.

Journal of Japan Society of Nursing Diagnosis Vol.13 No.1 pp.78～83, 2008

神気性（スピリチュアリティ）とは

What is Spirituality?

比嘉　勇人[1]

Hayato Higa[1]

はじめに“言霊（*Spiritus*）”ありき
言霊は“神気（spirit）”とともにあり
言霊は“神気性（spirituality）”なりき

“spirituality”の語源となるラテン語の“*Spiritus*”は，生命徴候である「気息」（breathing）や大気循環する「風」（wind）の語義をもつ．いうまでもないが，「気息」は生命維持だけでなく言葉を発するための動力ともなる．言葉の力は，人間性や文化を培うための効果的なツールとして活用され，「風」同様いたるところに流れ入り，人々に影響を及ぼしていく．この*Spiritus*の霊妙な力（生気の吹き込み）は，たとえば『万葉集』の中での「言霊」と同義であり，その不可視な特質は「神気」と表現できる．

spiritualityについては，「霊性」あるいは「精神性」と和訳されることが多い．その概念には個人的（personal）なレベルから宇宙的（transpersonal）なレベルまでが包摂される．このような広域・多彩なspirituality の全容を把握し，相互理解を求めることは容易ではないだろう．また，多岐にわたるspiritual concernsに医療従事者が関与していくことも非常に困難であると思われる．

[1] 滋賀県立大学
The University of Shiga Prefecture

そこでここでは，個人的レベルに限定された「神気性（スピリチュアリティ）」概念をまず提示し，次に，その評定法と神気的（スピリチュアル）ケアの指針について提言したい（図1）．

I. 神気性（スピリチュアリティ）の定義

『広辞苑』（1998）によると，「神気」は「万物を組成する元気」「心身の力」「気力」「こころ」などと明示されている．また，『詳細国語辞典』（1985）では「神気（万物のもとになる気）発動」「神気（活力）を回復する」「身に備わる神気（精神）」などと例示されている．さらに「神気」の用例を探索すると，福澤諭吉[1]『福翁百話』では「（略）死別の一段に至りては，覚悟を改めて第二生の境界に入り，神気颯然として半点の曇りを見ずとの意を明らかにするのみ．即是れ大自在の安心法となりと知るべし」，また貝原益軒『養生訓』の巻第二「総論」下では「調息の法，呼吸をとゝのへ，しづかにすれば，息やうやく微也．弥久しければ，後は鼻中に全く気息なきが如し．只臍の上より微息往来する事をおぼゆ．かくの如くすれば神気定まる」[2]とある．上記文脈の「神気」については，「気（こころ）の動き・状態」を表していると判読できる．

したがって，「神気性（スピリチュアリティ）」（personal spirituality）については，次のように定義できる．

神気性（スピリチュアリティ）とは，「何かを求めそれに関係しようとするこころのもちようであり（意気），自分自身やある事柄に対する感じまたは思い（観念）」である．比喩的にいえば，神気性（スピリチュアリティ）とは「こころの呼吸（気の出入）」である．それは，「自と他をつなぐ意気（つなげるこころ）」と「自と自をつなぐ観念（つながるこころ）」によって交差環流しており，「からだの呼吸（外呼吸・内呼吸）」と同等に人間（的）存在に不可欠な事象である．「こころの呼吸（こころのつながり性）」の障害，つまり「つながりの喪失」や「つながりの不全」が起こることで「神気的苦痛（スピリチュアルペイン）」や「神気的苦悩（スピリチュアルディストレス）」が発症する．

なお，看護診断（NANDA）の領域（ドメイン）で神気性（スピリチュアリティ）と関連する項目は，「自己知覚」と「生活原理」である．「自己知覚」は「自己についての自覚」と定義され，その類（クラス）に「自己概念（希望，孤独感，自己概念，自己同一性，絶望，人間の尊厳，パワー，無力）」「自己尊重」「ボディイメージ」が配置されている．これは「内面・外見に対する受けとめよう」と理解できる．

また，「生活原理」は「真実である，または本質的に価値が高いとみなされる行動や習慣，あるいは制度に関する道徳上の振る舞い，思考，および行動の基礎をなす原理」と定義され，その類（クラス）に「価値観（希望）」「信念（希望，霊的安寧）」「価値観/信念/行動の一致（意思決定，意思決定葛藤，信仰心，道徳的苦悩，ノンコンプライアンス，霊的苦悩）」が配置されている．これは「内外における自分らしさ」と理解できる．ここで，「霊的苦悩」については「自己，他者，美術，音楽，文学，自然，

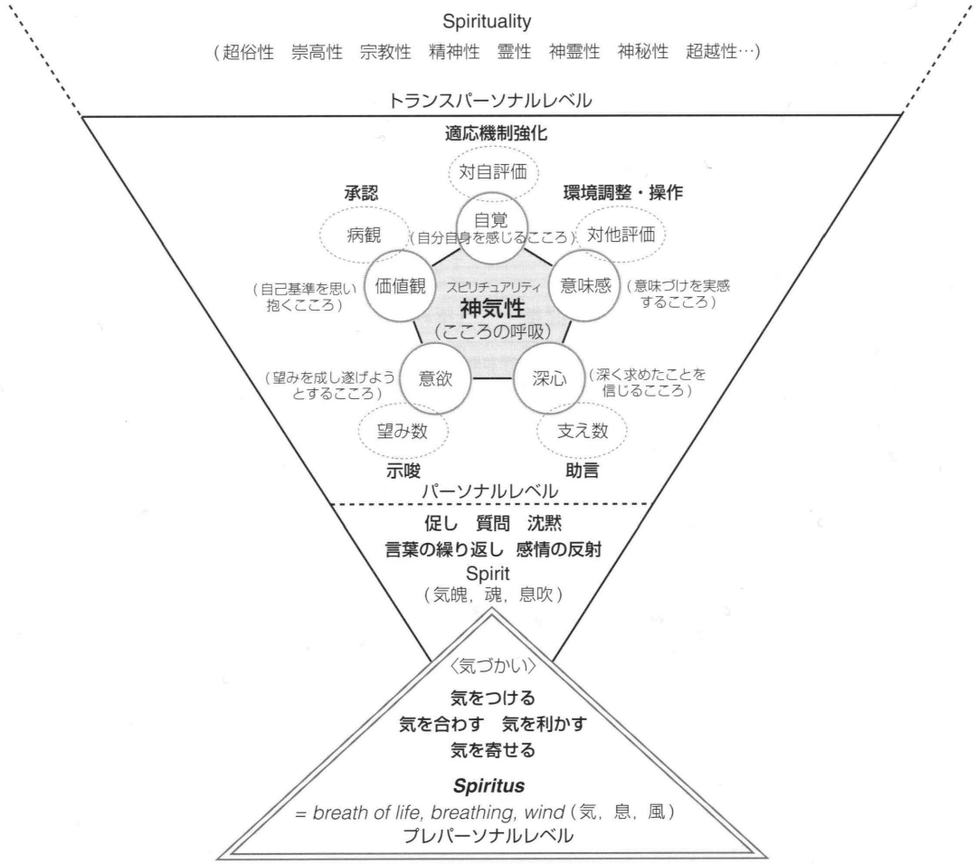

図1　神気性（スピリチュアリティ）および神気的（スピリチュアル）ケア技法の位置づけ